

令和6年5月18日（土）、京都市上京区において、関西慶應寮和会第24回定例懇談会が開催されました。小夏を先取りしたような晴天の下、太田さん、原さん、伊東さんが初参加され、計31名（会員23名、ご家族8名）により実施に至りました。

＜出席者＞ 23名（会員のみ・敬称略・部分参加も含む）

清浦（S38商） 寺沢（S38商） 山本（S38経） 相本（S41法）
 酒井（S42法） 塙（S47文） 松尾（S47経） 三角（S49工）
 青嶋（S52工） 袖岡（S55商） 山代（S55法） 松永（S58工）
 太田（S61理） 阪本（S61商） 小堀（S63商） 原（S63理）
 竹崎（H02法） 豊田（H03理） 井内（H04商） 伊東（H04法）
 浄住（H05経） 四元（H13総） 宮崎（H16経）

I 第1部「平安京 源氏物語の世界へ」（13:30～17:00）

今回は「平安京 源氏物語の世界へ」をテーマに、平安京遷都から東京奠都に至るまで続いた都の中心を巡り、会員相互の親睦を図りました。

皆さんお昼過ぎに京都御所清所門前に集合し、早速門をくぐりました。



京都御所正殿の紫宸殿（ししんでん）

①京都御所

御所とは、天皇の私的空間を含む宮廷のことです。

現在の京都御所は、南北朝時代に北朝の光厳（こうごん）天皇が即位された場所。以降約500年間、この地に歴代天皇が住まうことになりました。

幾度かの焼失や再建の後、再建されたのは幕末でありながら、平安時代の様式を強く受け継ぐ現在の御所。

正殿である紫宸殿、天皇が日常の住まいとしていた清涼殿を始め、様々な歴史上の舞台となった「内裏（だいら）」を、職員さんにガイドしていただきました。



承明門前からの大文字山



清涼殿でガイドを傾聴



御池庭の絶景

②廬山寺

京都御所参観を終え、御所を囲む京都御苑東側・清和院御門を出てすぐの、廬山寺に向かいました。

廬山寺は、吸収合併等を経て、天正年間に現在地に移った寺院ですが、現在の所在地は元々紫式部の邸宅址であったとされています。

現在放映中の大河ドラマ「光る君へ」。主人公である紫式部が、この地で藤原宣孝と結婚生活を送り、一人娘の賢子を育て、そして「源氏物語」を執筆する姿が今後描かれることになります。

私たちの人数を見て、職員の方が急遽ガイドに応じて下さいました。



廬山寺（ろざんじ）



急遽ガイドをお願いしました

③京都迎賓館

廬山寺の拝観後、再び京都御苑に戻り、京都迎賓館を参観しました。

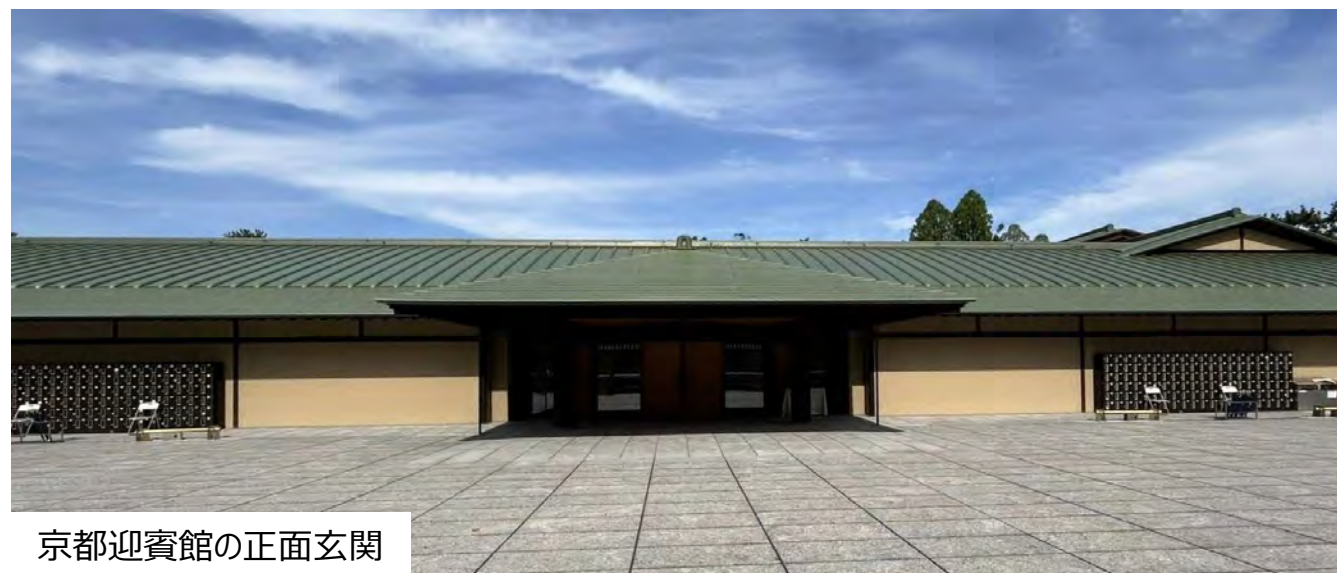
京都迎賓館は、日本の歴史、文化を象徴する都市・京都で、海外からの賓客を心をこめてお迎えし、日本への理解と友好を深めていただく施設として平成17年（2005年）に建設されました。

歴史的景観や周辺の自然環境との調和を図るため、洋風の迎賓館赤坂離宮とは対照的に、日本の伝統的な住居である入母屋屋根と数寄屋造りの外観とし、品格のある和風の佇まいを創出しています。

建物や調度品には、数寄屋大工、左官、作庭、截金（きりかね）、西陣織や蒔絵（まきえ）、漆等、数多くの京都を代表する伝統技能において匠の技を用いています。

日本庭園も、京都庭師らにより、「庭屋一如（ていおくいちによ）」の現代和風庭園として造られています。

事前申し込み要のガイドツアーを利用し、係員さんの案内の下2班に分かれ、伝統技能の粋を集めた最高のおもてなしの場を堪能しました。



京都迎賓館の正面玄関



ふんだんに採り入れられた匠の技

Ⅱ 第2部 懇親会 (18:00~20:00)

京都御所朔平門前で一旦解散後、「がんこ三条本店」(京都市中京区)にて再集合し、懇親会が開かれました。青嶋会長の挨拶、本部からご参加の太田さん、原さん、初参加の伊東さん、今回最年少の四元さんより近況報告をいただきながら、数十年ぶりの再会を喜ぶ方もいらっしや、散策の疲れを癒す楽しい宴席となりました。

Ⅲ 編集後記

「有朋自遠方來、不亦樂乎」

皆さまご存知「論語」に出てくる言葉です。

学びを深める場として取り組んでいる定例懇談会ですが、今回は遠方からの参加者をたくさんお迎えし、事務局としても本当に喜ばしい限りでした。

「同じ志をもつ友が遠くからやってきて一緒に学ぶ。なんと楽しいことでしょう。」

今回も皆さまお元気にお集りいただくことができました。次回もまた健康な姿で再会できるよう心より願っております。

今後も楽しく有意義な活動をしていく所存ですので、これからもよろしくお願いします。

以上



京都御所朔平門（さくへいもん）前で全員集合



「唯酒無量、不及亂」（「論語」より）の楽しい懇親会